



遠藤幸子議員

問 安全対策と地域のかかわりは

答 地域ぐるみで見守るまちづくり

問 (山田教育長)

子どもの痛ましい事件が連続で起きた。また、町内でも不審者の話を聞いたりするが、安全対策はどのようにしているか。

答 (山田教育長)

地域の人が子ども達、学校にかかわることにより、お互いに声をかけやすくなると思うが、それについてどう考えるか。

答 (山田教育長)

「青少年育成大山町民会議」を設置。非行防止・防犯対策等、多様な取り組みをしている。警察によるパトロール、ボランティアによる防犯パトロールが開始されている。「子どもかけ込み110番」のステッカー5000枚を現在準備中。子どもと地域のかかわりには、安全の面ばかりでなく、子育ての中で、さまざまな効果がある。地域社会で子どもを見守る意識の醸成に努めたいと考えているので、近く全町民に呼びかける啓発大会を検討中。地域ぐるみで子どもを見守るまちづくりになればと願っている。

問 健康で長生きのまちづくりを
答 体制強化を図り事業推進

問 栄養の偏り、食の乱れが健康を損ねる。

食の活動に頑張っている食生活改善推進委員の力を、まちづくりの中に生かす考えはないか。

答 (山口町長)

食を抜きにして、健康づくりはありえない。推進員は、地域における役割を認識し、食事の改善を重点目標に、活動をしている。医師・



親子で料理講習

栄養士・保健師のさらなる体制強化を図りながら、健康なまちづくりの達成に向けて、事業を推進する。

問 防災体制はどうなっているか

答 新体制づくりを急いでいる



野口俊明議員

問 大山町の防災について問う。

(1)体制・対応・対策はどうか。
(2)防災訓練の状況および反省点は。

答 (山口町長)

(1)旧3町それぞれにあった防災計画を一つに

まとめ、地域防災計画を策定中。現在は、暫定的なマニュアルで対応している。職員の役割、町の消防団、警察・広域消防・自衛隊、通信ではN・T等、電力では電気会社、J・R等々、さまざまな組織と連携を図る体制作りを急いでいる。自衛消防を核にした、地域自主防災組織を各集落に組織し、災害に備える体制を作り、皆の意識を高めていかなければと考

えている。
(2)10月6日、大山町総合防災訓練を実施した。日本海沖の地震により、津波発生を想定。暫定の地域防災マニュアルに基づいて災害対策本部を設置し、災害情報の伝達、避難所の設営手順について検証を行った。本部からの指示命令をいかに迅速かつ正確に伝えられるかといった点では伝達の手順、職員の配置に改善の必要があった。
町内全域に訓練参加を呼びかけたが、16集落、230人と少なかった。今後、たくさんの参加があるような取り組みをしたい。

えたい。
(2)10月6日、大山町総合防災訓練を実施した。日本海沖の地震により、津波発生を想定。暫定の地域防災マニュアルに基づいて災害対策本部を設置し、災害情報の伝達、避難



防災訓練では、消火訓練も行われた